



## 夏の日々にクラシックを♪

## 『六番目の小夜子』 恩田 陸

(スタッフ・H)

## 音楽を読む

この本の舞台となる学校では、三年に一度、学園祭の時に「サヨコ」を行うという伝説が引き継がれています。卒業生の受験合格率にも影響すると言われていたため、今年で六度目になる「サヨコ」も、暗黙のルールとして進められるはずでした。ですが一人の転校生によって、事態は思わぬ展開を迎えます。劇中では、エリック・サティの「ジムノパディ」が流れ、生徒たちは曲に乗せて掛け合いを行っていく場面があります。静かに穏やかで、でもどこか足りなくてもがいているような曲調は、青春を過ごす子どもたちと重なり、とても印象的です。

「サヨコ」とは一体どんなもので、どんな結末に向かうのか、音楽と共に楽しみください。



『六番目の小夜子』 恩田 陸

出版社:新潮社  
請求記号:B913.6/オ  
駅南図書館所蔵あり

ナクソスに  
ログインして  
アクセス!



エリック・サティのジムノパディは3番まであり、ナクソスではすべてを様々な形で聞くことができます。聞き覚えがあるのは1番かと思いますが、それぞれに印象が変わりますので、ぜひ聞いてみてください。

## クラシックにふれよう

## 『ピアノ協奏曲第2番』 セルゲイ・ラフマニノフ

(スタッフ・O)

「ピアノ協奏曲第2番」はラフマニノフの作品の中で最も有名でまた、演奏される機会の多い作品です。ロマンティックなメロディは映画などでも使われ、耳にされたことも多いでしょう。

1895年22歳の時、交響曲第1番を完成させ、2年後の1897年に初演の機会を得ますが、大失敗に終わり、自信を喪失したラフマニノフは鬱に悩まされるようになり、作曲からも遠のいてしまいます。1899年イギリスに渡りピアノ協奏曲の作曲依頼を受け、翌1900年に周囲のすすめもあり、精神科医の治療を受けながら作曲し、1901年に完成させました。この曲はラフマニノフ自身のピアノ演奏により初演され大成功を収め、作曲家としての名声を確立しました。

冒頭の美しい和音は手の小さなピアニストでは一度に弾くことはできません。ラフマニノフは背も高く、手も大きかったため12度の音程をつかむことができたそうです。ピアニストとしてもたくいまれな才能を持ったラフマニノフが作曲した難曲は愁いを帯びた美しい旋律が聴くものに豊かな感動と余韻を与えます。



ナクソスに  
ログインして  
アクセス!



「ナクソス・ミュージックライブラリー」には生誕150周年を記念したプレイリストもご用意しています。またピアノ協奏曲第2番のラフマニノフの演奏バージョンもありますので是非聴き比べてみてください。「ラフマニノフ ピアノ協奏曲」で検索し、演奏者をラフマニノフに絞っていただく、もしくは詳細検索でタイトル、演奏者を指定して選んでいただけます。

## ピアノが1台、子どもが3人

(スタッフ・I)

## 音楽とわたし

小学生の頃、ピアノの発表会の際に兄弟三人で連弾をしたことがある。高音担当で右手だけの譜面だった私が一番お気楽な感じで、低音担当の姉も基本的に伴奏なので無難にこなし、中盤の主旋律を弾いていた兄が大変なことになっていた記憶がある。

近年、街角や駅、商業施設などにストリートピアノが増え、その演奏動画TwitterやYouTubeなどで目にしたことがある方も多いと思う。市川市でも第1庁舎でベーゼンドルファー(世界三大ピアノの1つ)の貸出事業があり、多くの市民の方に演奏されていた(事業は2022年12月28日に終了。ピアノは文化会館に戻っています)。ストリートピアノでは、曲のアレンジや速弾きだけでなく、その日初めて出会った人が、即興で連弾をすることがあるが、相手の反応を探りながら高音から少しずつ演奏しているのを見ると、片手でちよいちよいと参加した、あの発表会の三連弾を思い出す。



## 編集担当のひとこと

早くも7月から異常な暑さを記録しているこの夏。ナクソスHPおすすめプレイリストには「クラシックでリラックス～きれいな音を聴きながら、心と身体をリラックス。」がご用意されています。随時更新されているそうなのでリラックスして過ごす家でのひとときは是非ご利用ください。暑い夏をクラシックとともに乗り切りましょう。